

# 令和7年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：35003

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇各種アンケートより、生徒・教職員ともに授業に対する評価が肯定的。生徒アンケートでは9割が肯定的回答。</li> <li>◇札幌市共通指標の学習関連34項目中、33項目において札幌市の中2平均より本校全校平均が大幅に高い回答。</li> <li>◇全国学力・学習状況調査の国語、数学ともにほぼすべての観点項目において全国平均を上回る良好な結果を得ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇札幌市共通指標のICT関連15項目中、13項目において札幌市の中2平均より本校全校平均が高い。しかし、中2同士の比較では、15項目中の10項目で本校平均が札幌市平均を下回り、本校の大きな課題の一つと言える。</li> <li>◇全国学力・学習状況調査の質問調査より「学習への取組」に関する質問において全国と比較して大幅に下回っており、本校の大きな課題の一つと言える。課題探究的な学習の充実が喫緊の課題である。</li> </ul>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇札幌市共通指標「相互承認」5項目すべてが札幌市の中2平均を上回っている。特に「自分が必要とされている」では中2同士の比較で7.7p上回っており概ね良好である。一方、「自分にはよいところがある」では、昨年の1年生（現2年）が他学年より10p近く低く、学年の差が大きい。子どもの声を聴き、学校活動の様々な場面でプラスの評価を投げかけ、メタ認知能力を育みたい。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

## 自らの成長や学びを実感し、新たな学びへと向かう力

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇自分ごととなる課題設定～イントロダクションにおける教師側のしなげづくり</li> <li>◇他者の意見を求めたくなる思考の深まりをめざして～効果的な協働的学びへ</li> <li>◇手段としてのICT活用～基本操作の力を十分に身に付け、生徒自ら手法を選択</li> <li>◇端末で家庭学習時間を記録し、キャリアパスポートで自己の学び方を調整し、伸びを実感できる流れの構築</li> <li>◇既習事項を新たな学びに生かす場面の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校祭等の生徒会行事における生徒の「やりたい」を支える取組</li> <li>◇生徒会のクラスルームを活用した行事の振り返りにより、生徒自らが諸活動の「創り手」となっている実感へ</li> <li>◇生徒会とパートナー校の児童会との会議（WEB・対面）の充実～小学生に憧れられる中学生へ</li> <li>◇全校道徳の実施～学級での話し合いを全校で交流し、いじめ防止へ向け、生徒自らの言葉による宣言へ</li> </ul>

〈本プログラムの実行に向けて〉

